

会話で学ぼう！

山水画と 風景画のあいだ —真景図の近代

キャラクター紹介



Y学芸員

美術館の学芸員。

画家たちの話を聞きながら、作品の見方をわかりやすくまとめる。



司馬 江漢 しば・こうかん 1747～1818

江戸時代の洋風画家。西洋の遠近法を用いて銅版画や油絵（蠟画）で日本の風景を描いた。銅版画を自作して、地動説を紹介するなど、マルチな才能をもつ。



田能村 竹田 たのむら・ちくでん 1777～1835

江戸時代を代表する文人画家。淡い水彩や墨色で風景を情感豊かに描く。37歳で隠居してからは、作画活動に没頭する。



高橋 由一 たかはし・ゆいち 1828～1894

江戸生まれの洋画家。幕末から明治の日本で本格的な油絵を描いた最初の画家。左肩に見えているのは、彼の代表作《鮭》のモチーフ。



高島 北海 たかしま・ほっかい 1850～1931

明治・大正期の日本画家。長州藩・萩出身。地質学の知識を取り入れて山水画を描く。美術運動「アール・ヌーヴォー」の代表人物、エミール・ガレらフランス・ナンシーの美術家たちと交流した。

※より詳しい作家・作品解説は、展覧会図録に掲載しています。

※こちらの会話文は、下関市立美術館ホームページでも公開されています。ぜひご覧ください。